

主成分分析を用いて因子負荷行列を計算する際に 主要因子が推定できる条件

伊藤雅明 (広島大学大学院 工学研究科)

佐藤学 (広島県立保健福祉大学 総合教育センター) *

1 はじめに

主成分分析は、本来は因子分析とは異なる目的のための手法であるが、因子分析的に用いられることが多い。そのとき、相関行列 (または分散共分散行列) の固有根の大きい方から対応する固有ベクトルから計算した「因子負荷」を“順に”解釈しようとすることが多い。ここでは、その手順を機械的に適用すると不適切となる例を提示する。

このため、 p 次元データ x が因子分析のモデル $x = \mu + \Lambda f + u$ に従うと仮定する。ただし Λ は p 行 k 列の因子負荷行列である。 x の母分散共分散行列 Σ は、 $E\{f\} = 0$, $E\{u\} = 0$, $E\{fu'\} = 0$, $E\{uu'\} = \Psi$ (対角行列) という仮定のもとで、 $\Sigma = \Lambda\Lambda' + \Psi$ となる。 $D = \text{diag } \Sigma$ とおき、 $D^{-1/2}\Lambda$, $D^{-1/2}\Psi D^{-1/2}$ を改めて Λ , Ψ とそれぞれ書くことにすると、母相関行列 P は $P = \Lambda\Lambda' + \Psi$ と表される。

Θ を対角成分に P の固有根を大きさの順に並べた対角行列、 Q をその固有値に対応する長さが 1 の固有ベクトルを並べた直交行列とすると、 $Q'PQ = \Theta$ なので、

$$P = Q\Theta Q' = (Q\Theta^{1/2})(Q\Theta^{1/2})' = \tilde{\Lambda}\tilde{\Lambda}' + E$$

となる。ただし、 $\tilde{\Lambda}$ は $Q\Theta^{1/2}$ のはじめの m 列で構成された行列であり、主成分分析で計算した m 因子の“因子負荷行列”とよばれる。

以下の議論では、 Λ は一意に定まるための Anderson と Rubin (1956; Theorem 5.1) が与えた十分条件を満たし $\text{diag}(I - \Lambda\Lambda')$ が正定値になるように与えて、 $\Psi = \text{diag}(I - \Lambda\Lambda')$ として P を定める。ここで I は単位行列である。そして $\tilde{\Lambda}$ が Λ を近似できているかを調べる。

*連絡先 〒 723-0053 広島県三原市学園町 1-1 広島県立保健福祉大学 総合教育センター sato@hpc.ac.jp

2 数値例

固有根の大きい方から対応する固有ベクトルから計算した「因子負荷」を“順に”解釈すると不適切である例を掲げる．これは Sato(1992) の Table 6.1 で与えられた例の拡張である．

$$\Lambda = \begin{pmatrix} x & 0 \\ x & 0 \\ .75 & .15 \\ .75 & .15 \\ .75 & -.15 \\ .75 & -.15 \end{pmatrix} = (\lambda_1, \lambda_2) \text{ とおく.}$$

(1) $\tilde{\Lambda}$ の第 2 列が λ_2 を反映している場合 (2) $\tilde{\Lambda}$ の第 3 列が λ_2 を反映している場合

$x = .72$ のとき .

$$\tilde{\Lambda} = \begin{pmatrix} .777 & .0 & .491 & .394 \\ .777 & .0 & -.491 & .394 \\ .793 & .355 & .0 & -.193 \\ .793 & .355 & .0 & -.193 \\ .793 & -.355 & .0 & -.193 \\ .793 & -.355 & .0 & -.193 \end{pmatrix}.$$

固有根: 3.723 .505 .482 .460

$x = .69$ のとき .

$$\tilde{\Lambda} = \begin{pmatrix} .754 & .512 & .0 & .411 \\ .754 & -.512 & .0 & .411 \\ .792 & .0 & .355 & -.196 \\ .792 & .0 & .355 & -.196 \\ .792 & .0 & -.355 & -.196 \\ .792 & .0 & -.355 & -.196 \end{pmatrix}.$$

固有根: 3.650 .524 .505 .491

(3) $\tilde{\Lambda}$ の第 4 列が λ_2 を反映している場合

$x = .66$ のとき .

$$\tilde{\Lambda} = \begin{pmatrix} .732 & .531 & .427 & .0 \\ .732 & -.531 & .427 & .0 \\ .792 & .0 & -.197 & .355 \\ .792 & .0 & -.197 & .355 \\ .792 & .0 & -.197 & -.355 \\ .792 & .0 & -.197 & -.355 \end{pmatrix}.$$

固有根: 3.579 .564 .521 .505

x がわずかに変化しただけで , (1), (2), (3) の場合に分かれる . また , P の第 2 固有根 θ_2 はいずれの場合も 1 より小さいが , (1) の場合よりも (2) や (3) の場合の方が θ_2 が大きいことに注意したい .

3 解析的な結果

ここでは因子負荷行列として ,

$$\Lambda = \begin{pmatrix} x & 0 \\ x & 0 \\ b & a \\ b & a \\ b & -a \\ b & -a \end{pmatrix} = (\lambda_1, \lambda_2) \text{ を扱う . ただし , } 0 < x < 1, -1 < b < 1, b \neq 0,$$

$a > 0, a^2 + b^2 < 1$ とする .

$P = \Lambda\Lambda' + \text{diag}(I - \Lambda\Lambda')$ の固有根 $\varphi_1, \dots, \varphi_6$ は

$$\begin{aligned} \varphi_1 &= 1 + (-a^2 + 3b^2 + x^2 + \sqrt{(-a^2 + 3b^2 + x^2)^2 + 4x^2(a^2 + 5b^2)})/2 > 1, \\ \varphi_2 &= 1 + 3a^2 - b^2, \\ \varphi_3 &= 1 - x^2 < 1, \\ \varphi_4 &= 1 + (-a^2 + 3b^2 + x^2 - \sqrt{(-a^2 + 3b^2 + x^2)^2 + 4x^2(a^2 + 5b^2)})/2 < 1, \\ \varphi_5 &= \varphi_6 = 1 - a^2 - b^2 < 1 \end{aligned}$$

である .

$\varphi_1, \dots, \varphi_4$ が重根でないときには , 長さを 1 としていない対応する固有ベクトル $\gamma_1, \dots, \gamma_4$ は ,

$$(\gamma_1 \ \gamma_2 \ \gamma_3 \ \gamma_4) = \begin{pmatrix} s & 0 & 1 & t \\ s & 0 & -1 & t \\ 1 & 1 & 0 & -1 \\ 1 & 1 & 0 & -1 \\ 1 & -1 & 0 & -1 \\ 1 & -1 & 0 & -1 \end{pmatrix},$$

ただし

$$\begin{aligned} s &= \frac{x(a^2 + 5b^2 + x^2 + \sqrt{a^4 + 9b^4 + 26b^2x^2 + x^4 + a^2(-6b^2 + 2x^2)})}{b(-a^2 + 3b^2 + 3x^2 + \sqrt{a^4 + 9b^4 + 26b^2x^2 + x^4 + a^2(-6b^2 + 2x^2)})}, \\ t &= \frac{x(a^2 + 5b^2 + x^2 - \sqrt{a^4 + 9b^4 + 26b^2x^2 + x^4 + a^2(-6b^2 + 2x^2)})}{b(a^2 - 3b^2 - 3x^2 + \sqrt{a^4 + 9b^4 + 26b^2x^2 + x^4 + a^2(-6b^2 + 2x^2)})} \end{aligned}$$

と表される .

φ_2 に対応する固有ベクトル γ_2 が λ_2 を反映しているので φ_2 の順位を調べると , 次の結果が得られる .

(1) $|b| \leq \sqrt{3}a$ のとき , φ_2 は第 1 または第 2 固有根である .

(2) $|b| > \sqrt{3}a$ のとき ,

(2-1) $b^2 - 3a^2 < x^2$ であれば , φ_2 は第 2 固有根である .

(2-2) $\frac{(b^2 - a^2)(b^2 - 3a^2)}{a^2 + b^2} < x^2 < b^2 - 3a^2$ であれば , φ_2 は第 3 固有根である .

(2-3) $x^2 < \frac{(b^2 - a^2)(b^2 - 3a^2)}{a^2 + b^2}$ であれば , φ_2 は第 4 固有根である .

(2-4) φ_2 は第 5 および第 6 固有根にはならない .

参考文献

Anderson, T. W. and Rubin H. (1956). Statistical inference in factor analysis. *Proceedings of the Third Berkeley Symposium on Mathematical Statistics and Probability*, **5**, 111–150.

Sato, M. (1992). A study of an identification problem and substitute use of principal component analysis in factor analysis. *Hiroshima Mathematical Journal*, **22**, 479–524.